

報道関係者各位

2015年8月28日
株式会社大広 広報部

≪ 産官学連携プロジェクト「360° frontier」が海外に進出!! ≫
「Folklore Sphere(地域の魅力再発見と伝承)」をコンセプトとした作品を
世界最高峰のメディアアートの祭典『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』に出展



株式会社大広は(社長:落合寛司)、2015年9月3日(木)から7日(月)にオーストリアのリンツ市にて行われる、世界最高峰のメディアアートの祭典『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』の「ナレッジキャピタルスペース」に産官学連携で取り組んでいる「360° frontier」を出展します。

「360° frontier」プロジェクトは、当社と関西大学、ブルーイノベーション株式会社、大阪府高槻市との連携プロジェクトであり、2015年4月から本格始動しています。同プロジェクトは、無人航空機(UAV)からの360°空撮映像で地域の魅力を再構成し、広く社会へ発信することによって、まちの活性化をめざす活動です。当社は総合広告会社として、強みであるクリエイティブアイデアと戦略立案力を活かし、プロジェクトや作品の企画・運営、コミュニケーション戦略を担っています。

今回の『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』では、テーマである「Post City - Habitats for the 21st Century (ポスト・シティ 21世紀に私たちが生きる場所)」を受け、「Folklore Sphere(地域の魅力再発見と伝承)」をコンセプトとして設定し、関西大学と協同で展示作品を企画・構成しました。また、その作品の1つとして制作した「360° frontier」は、トンガルマン株式会社、株式会社創造の技術協力・撮影協力を得て、大阪府高槻市の摂津峡公園の3000本の桜や、1000匹のこいのぼりフェスタなどの360°空撮映像を球面スクリーンへ投影。センシング技術を活用し、ジェスチャーで自由自在に視点を動かし、地域の風景映像を楽しめるコンテンツとして制作しました。「360° frontier」は、展示期間後もWEBや国内の展示イベント等で、引き続きご紹介を予定しています。

出展概要

『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』

■ 会場 オーストリア リンツ市 オーストリア郵便局中央集荷場跡地(リンツ中央駅周辺)他

■ 日時 9月3日(木)~7日(月) ※現地時間

■ 展示作品

「Folklore Sphere(地域の魅力再発見と伝承)」をコンセプトとした4つの作品を展示します。

「360° frontier」

制作: 関西大学総合情報学部 + 株式会社大広

+ トンガルマン株式会社 + 株式会社創造

「city code: city as information(情報としての都市)」

制作: 高橋 卓久真 + 平尾 修悟

「Designing Nature: Kakitsubata」

制作: 井浦 崇 + 大島幸代

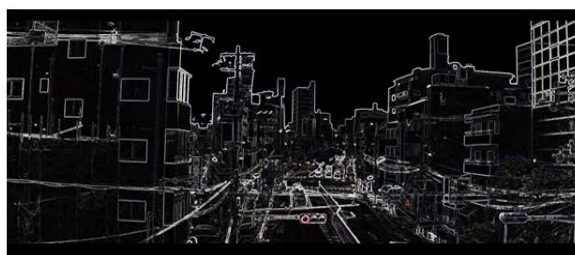
「『豊臣期大坂図屏風』デジタルコンテンツ」

制作: 井浦 崇

「360° frontier」



「city code: city as information(情報としての都市)」



「Designing Nature: Kakitsubata」



「『豊臣期大坂図屏風』デジタルコンテンツ」



■ 出展メンバー 関西大学(プロデュースおよび出展主体) / 株式会社 大広(企画)
トンガルマン株式会社(技術協力) / 株式会社 創造(撮影協力)

《リリースに関するお問い合わせ先》

株式会社大広 総務局広報部 長谷川千春 TEL03-6364-8601

《本件に関するお問い合わせ先》

株式会社大広 大阪ビジネスユニット ストラテジックプランニング局 第2プランニンググループ

長谷川 雄一(クリエイティブプランナー) e-mail: yuichi.hasegawa@daiko.co.jp

石丸小也香(ストラテジックプランナー) e-mail: sayaka.ishimaru@daiko.co.jp

参考資料

■ 出展作品について

テーマ: Folklore Sphere^{フォークロア スフィア}(地域の魅力再発見と伝承)

時を越えて有機的に発展してきた都市と自然をテーマに、市民の誇りとして伝承すべき価値を再発見し、その意義を複合的な視点からデジタルメディアによって表現します。

➤ 「Folklore Sphere^{フォークロア スフィア}」展示作品紹介WEBページ: <http://www2.kansai-u.ac.jp/f360/ars/>

「360° frontier」

制作: 関西大学総合情報学部 + 株式会社大広 + トンガルマン株式会社 + 株式会社創造

無人航空機から撮影した全天球映像を球形の和紙スクリーンに映し出し、地域の景勝地や祭りの様子を小さな地球の表面上に表現する。鑑賞者が球形スクリーンの前で手を動かすと、投影された風景が連動して回転する。鑑賞者はそれぞれの視点で球面上の映像コンテンツを「探索」することができ、この行為を通じて、受け継がれてきた地域の魅力に遭遇する経験を創出する。

➤ 「360° frontier」WEBページ: <http://www2.kansai-u.ac.jp/f360/>

➤ 「関西大学プレスリリース」
ス」<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/pressrelease/2015/No10.pdf>

■ 『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』について

『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』は 1979 年の初開催から今年で 34 回目を迎えるメディアアートの世界的な祭典です。昨年のフェスティバルでは 579 名もの科学者やアーティストが参加し、来場者は世界各地から 85,000 名を数えるなど大きく成長してきました。今年は「Post City -Habitats for the 21st Century (ポスト・シティ 21 世紀に私たちが生きる場所)」というテーマで開催され、リンツ市の中心地であるリンツ中央駅周辺「オーストリア郵便局中央集荷場跡地」をメイン会場とし、リンツ市内の各所を活用して「これから街の姿はどのように変容していくのか」を、アーティストや科学者、起業家、来場者と共に考えます。

本フェスティバルの「ナレッジキャピタルスペース」では、グランフロント大阪に拠点をおく一般社団法人ナレッジキャピタルのコーディネートにより、iPresence 合同会社、大阪工業大学、関西大学、XOOMS × U-SOFTFACTORY、株式会社竹中工務店、筑波大学 デジタルネイチャー研究所、株式会社電通国際情報サービスオープンイノベーションラボ、東京大学大学院 情報理工学系研究科廣瀬・谷川研究室、Vislab Osaka、マッスル株式会社の計 10 者(50 音順)が出展に参加します。

➤ 『ARS ELECTRONICA FESTIVAL 2015』WEB ページ: <http://www.aec.at/postcity/en/>